

# 静かなるひととき 筆が癒しへと導く

## 高級写経セット

# 近



### 特徴



#### 写経用硯 (雄勝硯)

黒色硬質で鋒鈍(ホウボウ=墨を削るヤスリ状の石の目)がきめ細かく密集しています。写経などに便利なコンパクトサイズです。



#### 写経用紙 (因州和紙)

にじみが少なく、筆ののりがよい楮(コウゾ)紙を使用。般若心教の手本入りで、最初は「なぞり書き」から始め、お手本を見ながら書く「写し書き」へと進んでいただくことができます。



#### 写経筆 (熊野筆)

紫毫(兎の毛)とイタチを使用しており、非常に先が利きくよう仕立てています。写経のみならず、実用書や宛名書きにも最適です。



#### 特選 鈴鹿墨 (鈴鹿墨)

粒子が細かく深みのある黒の力強さと伸びの良さ、格調高い赤紫系の純黒です。漢字、仮名ともにお使いいただけます。

### 職人達のこだわり



神経内科専門医  
医学博士・理学博士  
灰田宗孝先生

日常で頻回に使用する脳機能は年をとっても衰えません。写経では脳機能として、手の運動機能、小脳機能、視覚機能などの他に、前頭葉機能である、

- ①言語機能(文字を書くことで必要)
- ②右脳の機能(配置上のバランスをとる)
- ③写経を計画的に遂行するための機能(目的志向機能)
- ④注意分割の機能も必要となります。

これら機能を頻回に使うことは、老化の進行・認知症の発症を抑えるうえで最も有効な手段のひとつと考えられます。



#### 雄勝硯 春日常貴

(昭和47年10月4日生)  
室町時代から続く雄勝硯(宮城県雄勝町)。日本一の硯の産地であった雄勝硯だが、東日本大震災の津波で壊滅状態となる。工場を内陸に再建し、復興に向けて精力的に活動中。



#### 因州和紙 房安祐一

(昭和52年12月10日生)  
因州和紙(鳥取県)は品質の高さに定評があり、書道、墨絵に適した紙である画仙紙、半紙が有名。現在は工場長として更なる高みを目指す。



#### 熊野筆 北村光司

(昭和27年2月20日生)  
全国の約80%の生産量を誇る熊野筆(広島県熊野町)。代々筆士の家系で、10代から筆づくりを習う。引き継がれた伝統技術を継承。



#### 鈴鹿墨 伊藤龜堂

(昭和39年8月18日生)  
唯一伝統的工芸品に認定されている鈴鹿墨(三重県鈴鹿市)。昭和59年より父亀吉に師事。平成15年に伝統工芸士に認定。産地の未来を担う。

日本の伝統的工芸品の産地である、熊野筆、鈴鹿墨、雄勝硯、因州和紙からこだわりの商品を取り揃えた高級写経セットです。初めて写経を書かれるという方にも使いやすいセットとなっております。専用の桐箱に入っており、収納にも便利でプレゼントにも最適の逸品です。